

鯧魚兩統雜錄鱸魚同上鱣通雅黃花魚、黃靈魚、小石首魚同上其大ナル者ヲニベト云、一名スベ、四國ソ

チ同上ソコニベ備前長三尺許、大和本草ニハ四五尺六七尺ト云、形方頭魚ニ似テ長シ、背ハ紅ト

淡黒トノ斑點アリテ、腹ハ黄色ナリ、イシモチ及クチノ淡黃白色ナルニ異ナリ、ニベハ六月ニ食

フ味佳ナリ、海底ニ居リ上浮セズ、故ニソコニベト云、此魚齒ヲ愛ス、若齒網ニカ、ル時ハ動カズ、

死スル時ハ早ク爛レ、遠ニ致スベカラズ、大小皆首ニ二石アリ、潔白堅硬ニシテ瑪瑙ノ如クニシ

テ透明ナラズ、クチノ石ハ大サ三分許、一面ニ葵葉ノ形アリ、故ニ俗ニアフヒイシト云、又國ニヨ

リテ一面ニ疣多キモノアリ、ニベノ石ハ長サ一寸許、濶サ六七分、刀擲ノメスキニ用、一説ニイシ

モチトニベト別ナリ、ニベノ小ナル者ハニペイシモチ、江戸シラフ、土州ト云フ、クチトニベト形

色異ニ、石モ形異ナル時ハ、別種トスル説是ナル、ベシ、ニベノ腹中ニ白鰓アリ、長サ七八寸、白色ニ

シテ厚サ二分許、備前ノ兒島ニテフクト云、クチニモコレアレドモ小ナリ、白鰓ヲ製シテ膠トナ

スヲニベト云、物ヲ粘スルニ甚固シ、弓工コレヲ用ユ、即鱈鱈ナリ、

〔釋日本紀秘訓〕肥後國風土記曰、玉名郡長渚濱在郡昔者大足彥天皇景行誅球磨噲、還駕之時、泊

御船於濱云々、又御船左右遊魚多之、棹人吉備國朝勝見以鈎釣之、多有所獲、即獻天皇、勅曰、所獻之

魚此爲何魚、朝勝見奏申、未解其名、止似鱒魚耳、歷御覽曰、俗見多物、即云爾倍佐爾、今所獻魚、甚此多

有、可謂爾倍魚、今謂爾倍魚、其緣也、

〔享保集成絲綸錄四十九〕享保十七子年六月

一に魚之事、町方ニ而出次第被差出候儀者先無用ニ候、御用之時者其節々可相達事、

一只今迄御申付置候、房州其外浦々ニ而一度ニ三十本以上捉候は、是者とれ次第參候様ニ御

申付可有之事、

六月